令和６年度　岐阜県小学校社会科研究部会　研究主題

よりよい社会の実現を目指す子が育つ社会科学習
～子どもが社会とつながる授業を通して～

１　主題設定の理由

本研究主題は，急速な時代の変化や身の回りにある社会の諸問題に適切に対応し，よりよい社会の実現を目指して主体的に社会に参画するための資質・能力を育成するために設定したものである。

令和元年度の全国大会で提案された「これからの岐阜県の社会科」の理念や方向性は，着々と県内に広がり，各市・各学校で様々な実践が行われている。また実践の内容がより具体化し，研究の広がりを感じる。夏季研究協議会での提案をもとに成果と課題をまとめた。

◇成果

〔研究内容１－（２)〕

・ロイロノートを活用した「見通しカード」の実践。

〔研究内容２－（１)〕

・「多角的に考えるための学習活動」の幅が広がった。

〔研究内容３－（１)〕

・「見通しカード」を活用することで，「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価がさらに行いやすくなる。

◆課題

〔研究内容２－（２)〕

・選択・判断の授業実践が少なかった。

〔研究全体について今後の危惧として･･･〕

・研究内容と現場での実践が乖離していないか。（なかなか実践するのが難しい）

・「個別最適」「協働的」「ＩＣＴ」など，流行や手法を「形式」で追い求めてしまい，「何のためにそれが必要なのか」という本質から離れてしまうことが考えられる。

【岐阜県小学校社会科研究部会として　改めて大切にしたいこと】

・ＶＵＣＡの時代を生きる子どもたちに，**今「社会科だからこそ」付けたい力**を見極め，その方法を追究していくこと。

・まずは**現場の社会科専科の先生方が実践可能なもの**，「チャレンジしたい」と思えるものを広げていくこと。

・他教科専科の先生もチャレンジしたり，**他教科にも応用したりできるもの**を広げていくこと。

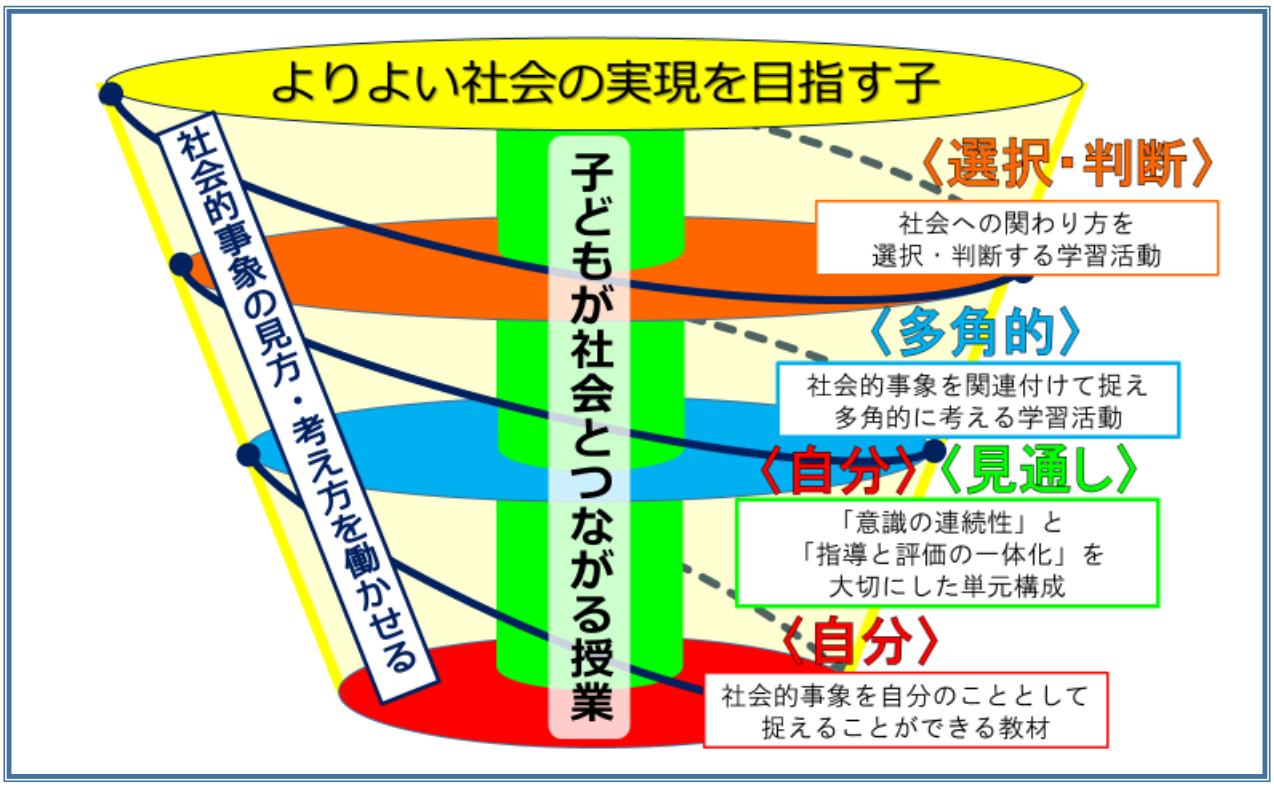
・小社研の一方的な提案ではなく，**各地域からの優れた実践を取り上げ，価値を再認識したうえで広げていくこと。**

【令和６年度　研究部としての重点】

❶今，社会科でこそ「付けたい力」を明らかにする。

❷今年度各地域から生み出された実践（具体）の「価値を明らかにして」県内に発信する。

【図表１】研究主題のイメージ



よりよい社会の実現を目指す子とは
よりよい社会の在り方について考え，自らの生き方につなげていく子

子どもが社会とつながる授業とは
社会的事象を自分のこととして捉え，見方・考え方を働かせながら，その意味を多角的に追究したり，社会への関わり方を選択・判断したりする授業

そもそも　この授業でどんな力を付けたいのか

この授業を行うことで，以下のような力を付けていきたい。

「学んだ力」としての社会科学力	「学ぶ力」としての社会科学力
社会認識力 事実を理解する力	・学習に対する**関心・意欲** ・学習に対する**粘り強さ** ・学習の進め方への**見通しと振り返り（自己調整）** ・**協働**して学習する**態度**等
社会認識力 意味や特色を理解する力	
社会的判断力 どちらがよいか・何ができるかなどを選択・判断する力	
批判的思考力 本当にそうか・本質は何かを吟味する力	

参考「これからの社会科教育はどうあるべきか　加藤寿朗著　2023　P128」

2　研究内容

研究内容Ⅰ　教材化や単元構成の工夫

（Ⅰ） 社会的事象を自分のこととして捉えることができる教材の開発　自分
（２）「意識の連続性」と「指導と評価の一体化」を大切にした単元構成　自分　見通し

研究内容２　学習活動の工夫

（Ⅰ）社会的事象を関連付けて捉え多角的に考える学習活動　多角的
（２）社会への関わり方を選択・判断する学習活動　選択・判断

研究内容３　指導・援助の工夫　自分　見通し　多角的　選択・判断

（Ⅰ）社会とのつながりに気付くことができる指導・援助と評価
（２）社会への関わり方を選択・判断する学習活動における指導・援助

3　研究内容と方法

研究内容Ⅰ　教材化や単元構成の工夫

（Ⅰ）社会的事象を自分のこととして捉えることができる教材の開発
（２）「意識の連続性」と「指導と評価の一体化」を大切にした単元構成

（Ⅰ）社会的事象を自分のこととして捉えることができる教材の開発　自分

子どもが社会とのつながりを実感するためには，各単元で取り扱う教材を，子ども自身が「自分との関わり」で考えることが大切である。この考え方は「身近な人々，社会及び自然を　自分とのかかわりで捉える」生活科の学習と通底したものであり，生活科同様「子どもの思いや願い」を生かした教材の開発を意識する必要がある。「子どもの思いや願い」を土台に教材を吟味したとき，次のような社会的事象を取り扱えば，子どもが教材を自分のこととして捉え，社会とつながる授業を具現することができると考え，【図表２】のように整理した。

【図表２】子どもが社会とのつながりを実感するための教材の在り方

	取り扱う社会的事象	社会とのつながり	教材化の留意点
①	社会に見られる課題を通して，そこへの**関わり方を考えることができる**もの。	身の回りで起きている出来事や社会に見られる課題に対して，自分の関わり方を考える。	子どもの発達段階や学習指導要領の内容に合っているか。
②	人の生き方に**感動やあこがれを生み出すことができる**もの。	人の生き方に感動やあこがれをもち，これからの自分の生き方や社会への関わり方を考える。	特定の人物の学習をするのではなく，一般化して考えることができるか。
③	**既習内容や子どもの生活経験に関連する**もの。	これまでに学習した内容や生活経験を生かして，社会に対する認識をさらに広げたり深めたりする。	子どもの実態を把握し，認識を広げたり深めたりすることができるか。

【図表２】の教材化の留意点にもあるように，**自分のこととして捉えやすい教材こそ「どのように一般化を図るか」**まで考えておくことで，真の意味で「子どもが社会とつながる」教材となり得る。

また，社会的事象を自分との関わりで捉えやすくするためには，他教科や他の領域との関連を考えて教材化を図ることも有効である。教科等横断的な学習（カリキュラムマネジメント）の視点も，今後広げていきたい。

（２）「意識の連続性」と「指導と評価の一体化」を大切にした単元構成　自分　見通し

子どもが社会的事象を自分のこととして捉えるためには，「教師が一方的に描いたシナリオ」ではなく「子どもの意識の連続性」をできる限り具体的に描く必要がある。**子どもがどのような「問い」や「考え」で社会的事象を追究するのかを事前に想定**しておきたい。その際に意識したいのが**「指導と評価の一体化」**である。やみくもに「子どもの意識や姿」だけで単元を構成しても，確かな資質・能力が身に付くとは限らない。**単元全体や一単位時間の「評価規準」を明確にした上で，子どもの意識を描くことで，一単位時間の役割，資料や発問，教師の指導・援助が明らか**となる。

前文と単元構成表の作成を以下のように工夫することで，「意識の連続性」と「指導と評価の一体化」を大切にした単元構想につながると考えている。（**本資料のP14に「前文のフォーマット」，P15に「単元構成表の記述例」を掲載しています。**）

〈学習指導案　作成上の留意点〉

—前文　作成時—

【１】学習指導要領をもとに「単元の目標」を設定する。

【２】「単元の目標」を，学習活動に落とし込んだ「単元の評価規準」を設定する。

—単元構成表　作成時—

【３】「単元の目標」をもとに「学習前・学習後の子どもの意識」を設定する。

【４】「単元の目標」をもとに「単元を貫く学習問題」を設定する。

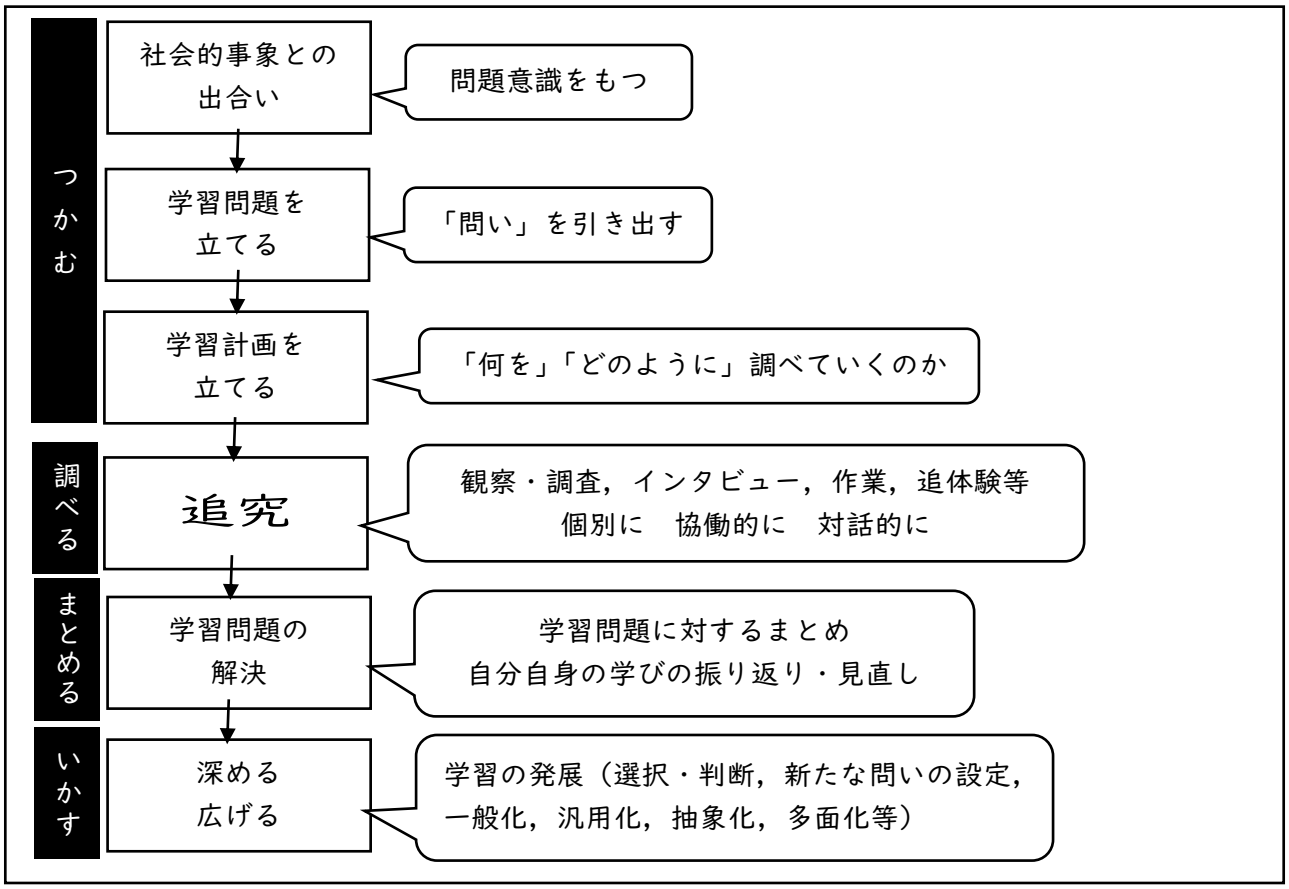
【５】第１時から順に，「問題解決的な学習のプロセス（以下参照）」を意識しながら，子どもの「問い」や「考え」を想定して授業をつないでいく。

【６】１時間のまとめ（□で囲まれた部分）を，「単元の評価規準」の，どの部分と照合するかを確認しながら設定する。

【７】単元全体ですべての「評価規準」を満たしているかを確認する。

【８】１時間のまとめ（□で囲まれた部分）の中で，「評価したことを記録に残す場面」については網掛けする。

〈単元における問題解決的な学習のプロセス〉



令和５年度の実践より（ＩＣＴ活用で　実践しやすく！）

そうは言っても、すべての単元で前文を単元構成表を詳細に作成することは，様々な面から難しい。そこで、令和５年度郡上市で実践された「見通しカード」を紹介する。

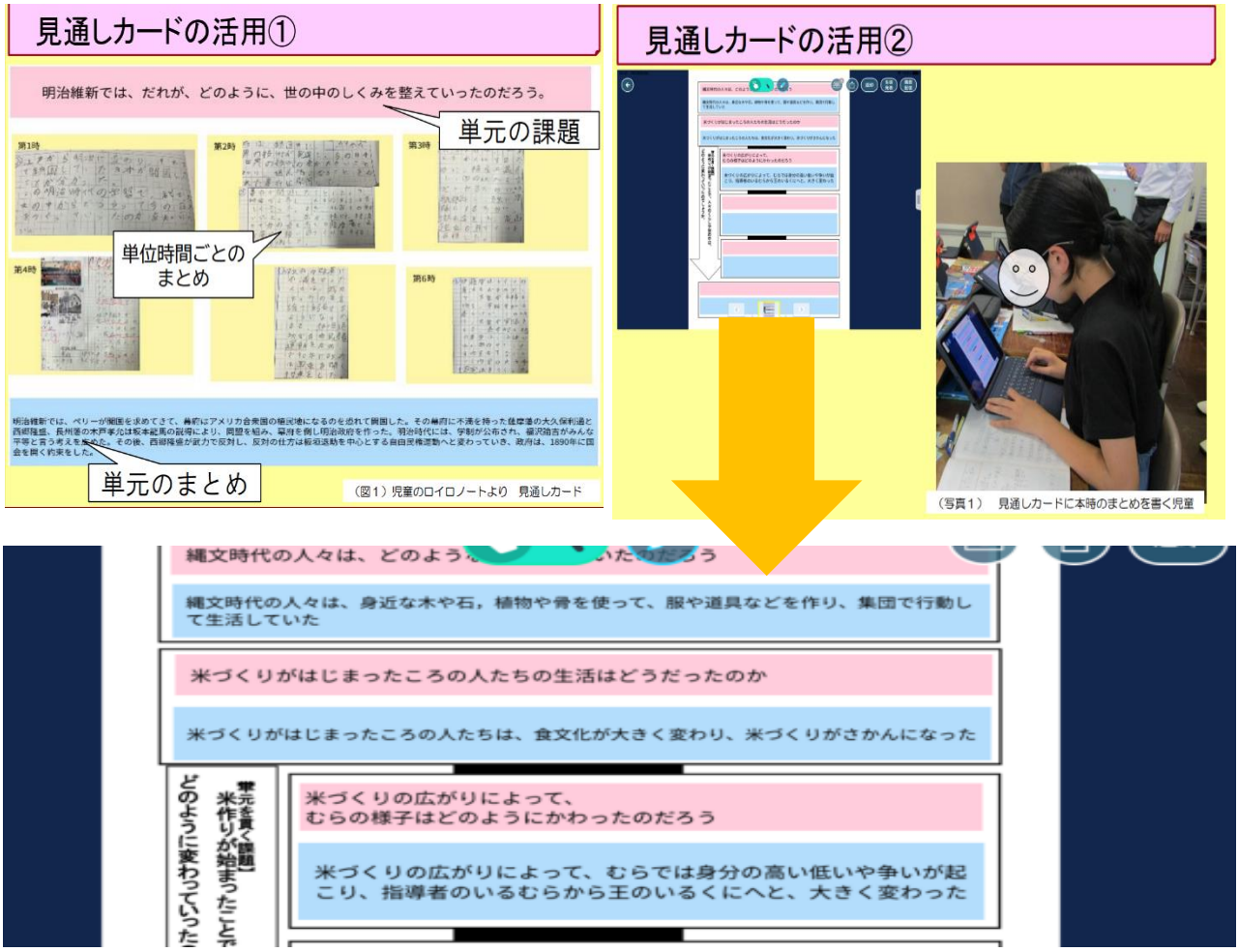
ＩＣＴのロイロノートを活用して，「単元の課題」「単位時間の課題」「単位時間のまとめ」を蓄積していく。

児童の実態によって，「見通しカードの活用①」のようにノートの記述を組み合わせることも可能であるし，「見通しカードの活用②」のように「すべてロイロノート」で作成することもできる。

この見通しカードの構想自体はあらかじめ教師が「大まかに」考えておくが，実際の授業（単元の１・２時間目あたり）で児童の考えを聞きながら，共に創り上げていく。

この見通しカードの作成によって，**❶教師は，単元全体や一単位時間の「評価規準」を明確にした上で，児童の意識の変容や，教師の指導・援助を考えることができる。❷児童は，「単元の課題」や「その解決に向けて，自分がどのような学びをしてきたのか（これからしていくのか）」を常に意識しながら，学びを進めることができる。**

【図表３】実践で作成・活用された見通しカード①②



「見通しカード」を活用していくことは，研究内容Ｉ―（２）で目指す「意識の連続性」「評価と指導の一体化」の実現だけでなく，後述する**研究内容３―（１）の「主体的に問題を解決しようとする態度（学びの自己調整力）」の育成にもつながっていく。**

今後はこの見通しカードを，「どの場面で」「どの程度作成する」とよいのかということについて，さらに深めていきたい。

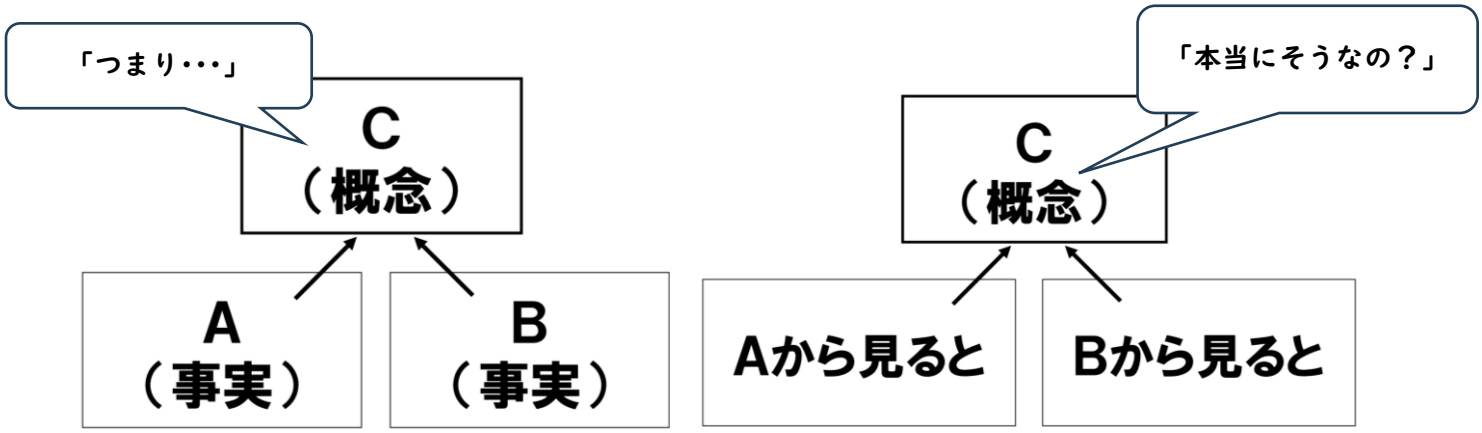
研究内容２　学習活動の工夫
（１）社会的事象を関連付けて捉え多角的に考える学習活動 （２）社会への関わり方を選択・判断する学習活動

（１）社会的事象を関連付けて捉え多角的に考える学習活動　多角的

研究内容２は一単位時間における学習活動を示した内容である。

（１）「社会的事象を関連付けて捉え多角的に考える学習活動」には，大きく分けて２つの意義がある。１つ目は事実と事実を関連付けて，**「つまり･･･」という社会的事象の意味や特色（概念）を生み出すための学習活動**。２つ目は，**獲得した概念に対して一度立ち止まり，「本当にそうなの？」と吟味するための学習活動**。

このように整理してみると，**前者は「社会認識力」，後者は「社会的判断力」「批判的思考力」の育成につながる（Ｐ２　社会科で付けたいカ　参照）**ことが分かる。



子どもたちが，**「つまり･･･」と「本当にそうなの？」という２つの考え方を用いることが，社会科で付けたいカを，より育成していくという認識**をもった上で学習活動の内容を考えていく。

以下の「多角的に考えるための　具体的な視点例」をもとに，県内でも様々な実践が行われている。（次ページからを参照）

魅力的で，かつ実践しやすいものが多いので，地域や学校の実態または学習内容によって今後も適切な学習活動を考えていきたい。

多角的に考えるための　具体的な視点例

①　**「共通性」「順序性」を考える** 様々な立場や意見の共通性や順序性に着目し，社会的事象の意味についての考えを集約する。
②　**「異なる立場」から考える** 様々な立場の人に着目し，社会的事象の特色や相互の関連，意味について考える。
③　**「他の事象」から考える** 別の社会的事象に転化して一般化を図り，他の社会的事象との相互の関連を考える。
④　**「自分との関わり」から考える** 自分と社会的事象との関わりを見つめ，社会的事象の意味と自分の生活との関連を考える。

「つまり･･･」タイプ
（概念を獲得）

「本当にそうなの？」タイプ
（多角的に考える）
（批判的・吟味的に考える）

令和５年度の実践より（多様な学習活動があります！すぐに実践できそうなものも！！）

実践例❶　教師からの深めの発問！！

「つまり…」タイプ

①　の発問

→「共通性」を問い「生産者の願い」という社会的事象の意味（概念）を生み出すことを促す。

【身に付く力】

◎社会的事象の意味や特色を考える力

「本当にそうなの？」タイプ

②　の発問

→「住民の生活を救いたい」という概念を，「国の立場」から多角的に考えることを促す。

③　の発問

→「Ｔ社の取り組み」の意味を「他社の立場」から多角的に考えることを促す。

④　の発問

→「市の取り組み」の意味を「自分自身の立場」から多角的に考えることを促す。

【身に付く力】

◎多角的に考える力

◎批判的・吟味的に考える力

---

①　「共通性」を考える
事例：３学年「農家の仕事」

農家の人が厳しく選別するのは，「大きさ」や「形」を揃えて「傷」のない枝豆を出荷したいからだ。

「大きさを揃える」ことや「形をそろえること」こと，「傷のない」ことに共通している願いは何かな。

意見を関連付けて共通する願いをまとめる

見た目や質の良い枝豆をたくさん出荷し，お客さんに安心して買ってもらいたいから，厳しく選別している。

---

②「異なる立場」から考える
事例：６学年「世界に歩み出した日本」

田中正造が天皇に直訴までしたのは，渡良瀬川の住民の生活を救いたかったからだ。

困っている人がいるのに，なぜ政府は足尾銅山を閉鎖しなかったのかな。

国の立場から考え，時代背景と関連付ける

富国強兵を目指し，列強に追いつこうとする国の立場もわかる。国の発展の背景には，国民の犠牲があったんだ。

---

③「他の事象」から考える
事例：５学年「自動車をつくる工業」

Ｔ社が多額の費用と時間をかけて，水素車を開発したのは，未来の地球環境を考えたからだ。

他社でも未来の地球環境のことを考えて開発している自動車はないかな。

学んだことを基に，自動車工業全体を見つめ，持続可能性のある社会づくりと関連付ける

日本の自動車工業は未来の国民生活を考えた新たな車づくりの努力をして国民生活を支えている。

---

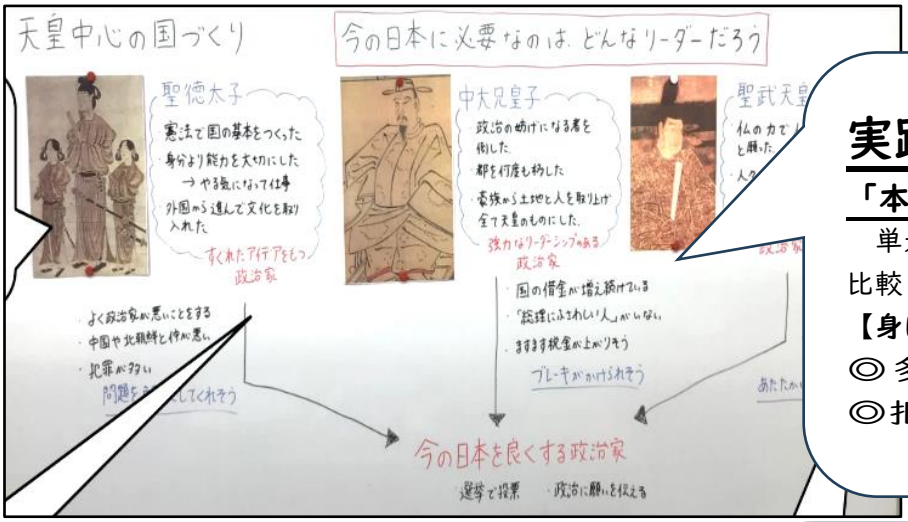
④「自分との関わり」から考える
事例：４学年「ごみのしょりと利用」

市が雑がみ回収に力を入れているのは普通ごみに混じる資源を再利用し，市のごみを減らすためだ。

単元のはじめに行ったあなたの「我が家のごみ調べ」を見て見よう。

市の対策と自分の協力を関連付ける

自分の家でも，もっと雑がみを分別できる。市のごみを減らす対策に少しでも協力していきたい。



実践例❷単元＝単元！！

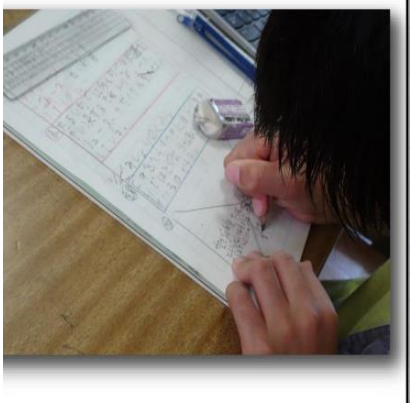
「本当にそうなの？」タイプ

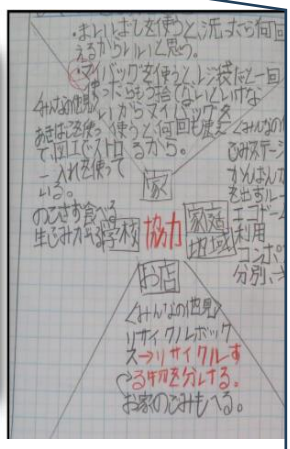
単元で学んだことと単元で学んだことを比較して考える学習活動

【身に付く力】

◎多角的に考える力

◎批判的・吟味的に考える力





実践例❸思考ツール！！

「つまり…」タイプ

思考ツールの形式に合わせて調べたり，仲間の意見をまとめたりしていくことで，根拠や理由が関連付き，概念が形成される。下のＸチャートは，視覚的に共通点をとらえられるため，概念形成にもつながりやすい

【身に付く力】

◎社会的事象の意味や特色を考える力

「本当にそうなの？」タイプ

思考ツールは「比較のしやすさ」にもつながる。例えば上のピラミッドチャートは，信長・秀吉の違いを視覚的にとらえやすく，比較した結果「本当に信長か？」「でも秀吉の方が･･･の部分は･･･」という思考が働きやすい。

【身に付く力】

◎多角的に考える力

◎批判的・吟味的に考える力

実践例❹吹き出し・セリフ！教科書でも！

「本当にそうなの？」タイプ

台詞を考えることで，自然に「異なる立場から」考えられる。考える内容が焦点化されるので，その後の話し合いや考えの比較も行いやすい。

【身に付く力】

◎多角的に考える力

◎批判的・吟味的に考える力

（２）社会への関わり方を選択・判断する学習活動　選択・判断

（２）社会への関わり方を選択・判断する学習活動においては，社会への関わり方を選択・判断する場を意図的に位置付けることを通して,「自分自身はどのように関わればよいか」「社会の在り方はどうあるべきか」等を考えることができるようにする。この学習活動を通して「社会的判断力（P2)」も身に付いていく。

その際に大切なことは,社会への関わり方を選択・判断する授業を単元全体でとらえ，学習対象と自分とのつながりを意識しながら学習を進めることである。そうすることで，単元で獲得した概念的知識を活用しながら，社会とどのように関わっていくとよいのかという意識を育んでいけると考えている。そこで，単元を通して行う選択・判断の授業の段階を【図表４】のように整理した。

また，選択・判断の学習では，内容の枠組みに応じて,【図表５】のような Type が考えられる。

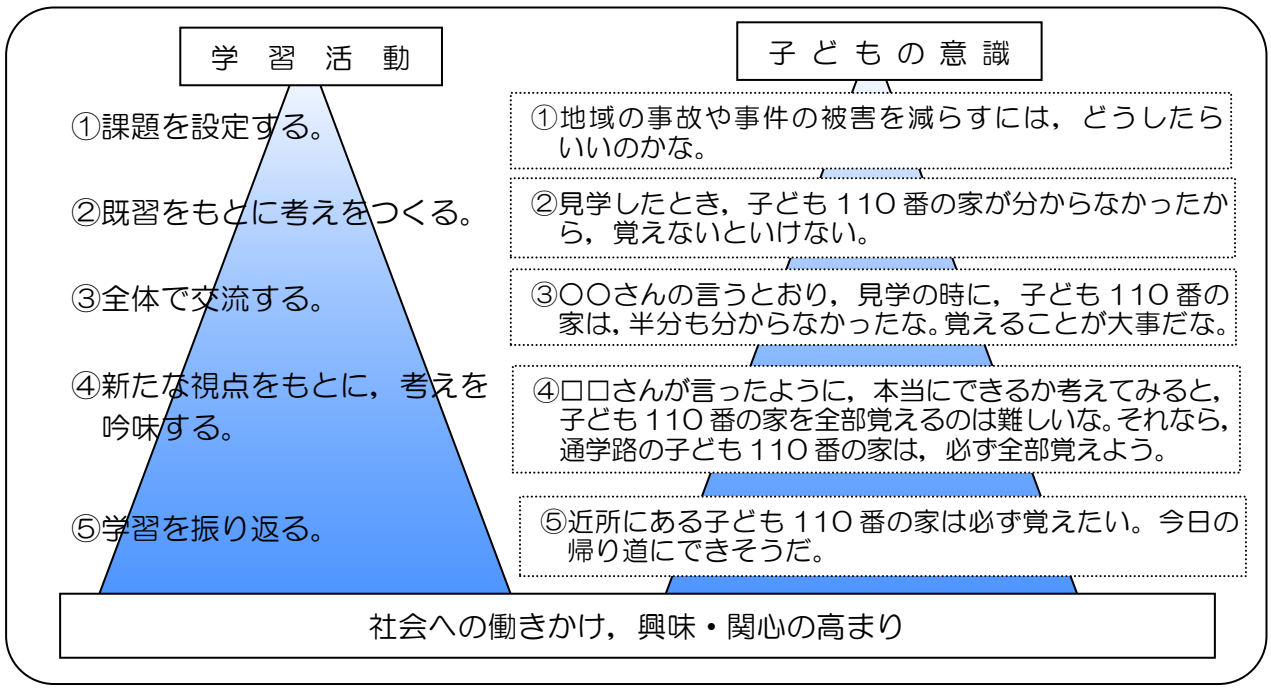
【図表４】選択・判断の授業の段階

【図表５】社会への関わり方を選択・判断する授業の具体例

Type	方　法	具　体　例
A	社会に見られる課題に対し，自分の関わり方を考える。	［第４学年　ごみのしょりと利用］ ごみを減らすために，自分にできることは何か。
B	社会に見られる課題に対し，実際に行われているいくつかの働きの中から，選択する。	［第５学年　米づくりのさかんな地域］ Ｆ社が今後も生産を続けていくためには，「品質の高い家庭用米」か「大量生産できる外食用米」のどちらを作るとよいか。
C	社会に見られる課題に対し，これからのよりよい社会の在り方を考え，提案する。	［第３学年　市のうつりかわり］ 〇〇市を人が住みたくなるような市にしていくためには，どうしたらよいか。

さらに，一単位時間の授業を，【図表６】のように構成した。

【図表６】社会との関わり方を選択・判断する授業の構成例（Type A）



研究内容３　指導・援助の工夫	自分	見通し	多角的	選択・判断
（１）社会とのつながりに気付くことができる指導・援助と評価 （２）社会への関わり方を選択・判断する学習活動における指導・援助				

（１）社会とのつながりに気付くことができる指導・援助と評価

研究内容３は「指導・援助」、そして「評価」の在り方についての内容である。

まず（１）について，子どもが社会とのつながりに気付くことができるようにするためには，子ども自身が「主体的に社会的事象に関わる」ことが大切である。そのため「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力」だけでなく**「主体的に学習に取り組む態度」の育成を目指す必要がある。**

また,「主体的に学習に取り組む態度」を育成することは，子どもが社会とのつながりに気付くだけでなく研究紀要Ｐ２の**「学ぶ力としての社会科学力の育成」にもつながるため，個別最適な学びや自己調整学習などの実現に向けて，今後ますます重要になってくる。**

「主体的に学習に取り組む態度」を育成するための第一歩が「指導・援助と評価」の明確化である。「態度」の評価や指導は「分かりにくく難しい」という意見も多いため、今後も実践を通して研究を深めていきたい部分である。以下に要点や実践例をまとめる。

１.「主体的に学習に取り組む態度」にかかわって

「主体的に学習に取り組む態度」については，次のような指導と評価を大切にしたい。**①と②については，令和５年度から取り入れた項目**である。

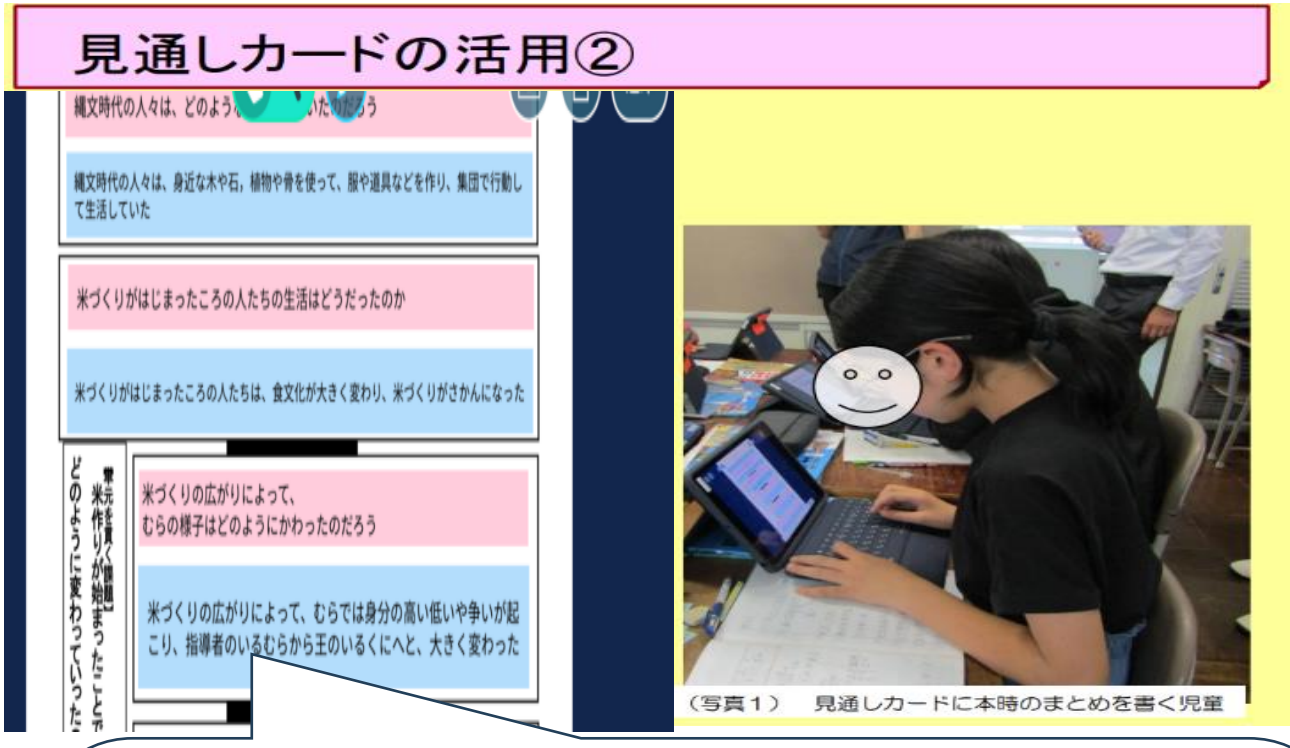
【図表７】「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価

評価する主な場面	評価する子どもの姿	教師の指導
① 授業（一単位時間・単元）の導入	**・問題解決に向けて，予想を立てる姿 ・解決までの見通しをもつ姿**	**・予想を比較したり関連付けたりできるように板書したり，問い返したりする。**
② 授業（一単位時間・単元）の中盤	**・自分の学習を振り返り，今分かっていることと，まだ調べる必要があることを考える姿**	**・課題とつなげて考えづくりをするよう助言する。 ・分かったことを整理させたり，未解決なことを表現させたりする。 ・一人の児童の新たな問いを全体で共有する。**
③ 授業（一単位時間・単元）の終末	・振り返りに分かったこと，考えたことの変容を記述する姿	・変容の見られる記述を価値付ける。
④ 授業（一単位時間・単元）の終末	・振り返りに次の学習への見通しをもつ姿	・さらに調べるべきことを見いだしている記述や発言を価値付ける。

「主体的に学習に取り組む態度」に関わって，令和５年度に実践された**「見通しカード」は，活用の仕方によってこの①と②の姿を指導・評価することにつなげることができる。**

令和５年度の実践では，どちらかと言えば「課題」「まとめ（知識）」を書き込んで蓄積するポートフォリオのような活用の仕方であった。そのような活用の仕方も有効であるが，今後例えば**次のページのような視点も踏まえて活用していくことで，より「主体的に学習に取り組む態度」の評価と育成**につながるのではないかと考えている。

令和５年度の実践より（児童が書く内容を吟味することで、さらに可能性が広がる！）



（写真１）　見通しカードに本時のまとめを書く児童

「すばらしい実践の可能性を　さらに広げるために」

❶「まとめ」でなく「振り返り」を記入する。
❷観点は「確かになった」「新たに気づいた」「新たな問い」など『自己の変容と新たな問い』のような形で書くことで，前の時間の自分の学びを振り返って次の学びにつなげていく。
❸そのため「評価」については「記録に残す時間」として数時間だけ位置付ける。
❹フォーマットをロイロ資料箱などに入れておくことで，より多くの先生が使いやすい。
❺発展型としては，単元導入１・２時間目に，「単元の課題」に対する児童の予想から，「学習計画」をたてて，それを一時間一時間の学習問題として事前に散りばめるところまでいけると，さらに主体的な学びにつながっていく。段階的に目指していく。
❻この「見通しカード」を「単元構想図（研究内容Ⅰ―（２）」として同時活用することで，使いやすさ＆財産の蓄積につながる。

２．「よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度」にかかわって

「よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度」については，「学習後の見届け」が大切である。カリキュラムマネジメントの視点からも，学習したことを社会科だけに留めるのではなく，学習後の児童の姿も評価し価値付けていくことが，よりよい社会の実現を目指す子を育てることにつながる。そこで，学習後の評価の場面や方法の例を【図表８】のようにまとめた。

【図表８】「よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度」を評価する方法と児童の姿の例

方　法	評価する姿
・学習後の自分の姿を振り返る場を位置付ける。 ・学習した単元とその後に学習する単元とのつながりを示す。	・自分が考えたことを実践したり，学習を広げたり深めたりしている姿

（２）社会への関わり方を選択・判断する学習活動における指導・援助

社会への関わり方を選択・判断する学習活動において，教師には，次のような役割がある。

【教師の役割（指導・援助）】

①話し合いの必然性を生み出す（社会に見られる課題と自分たちとの関わりを示す）

②授業のアウトラインを描く

③選択・判断の規準を明確にする

④話し合いを焦点化し，方向性を決める

⑤社会にかかわろうとする姿を価値付ける

■単元全体に関わる指導・援助

① 話し合いの必然性を生み出す（社会に見られる課題と自分たちとの関わりを示す）

社会への関わり方を選択・判断する学習活動では，社会に見られる課題を自分との関わりで捉え，実感をもって話し合いをするために，「みんなと話し合って解決したい」という必然性をもたせることが大切である。子どもが必然性をもつことができるような方法や，それによる子どもの意識を【図表９】にまとめた。

【図表９】　選択・判断の授業における子どもの意識と具体例

方　法	子どもの意識（必然性）	具　体　例
資料を提示する	社会に見られる課題について，解決方法を考えなければならない。	［第５学年　わたしたちの生活と森林］ 日本の森林を守るために，大切なことは何だろう。
	未来の自分の生活のために，今考えておきたい。	［第４学年　自然災害からくらしを守る］ 災害から身を守るために，できることは何だろう。
学習前の自分を見つめ直す	（社会に見られる課題を解決するために）自分にもできることがあるかもしれない。	［第３学年　事故や事件からくらしを守る］ 地域の交通事故を減らすためには，どうすればよいだろう。
ＧＴからの依頼を聞く	自分たちが考えることを通して，社会の役に立ちたい。	［第３学年　市のうつりかわり］ 人々が住みやすい市にするためには，どうすればよいだろう。

② 授業のアウトラインを描く

社会への関わり方を選択・判断する学習活動では，その場の思いつきの判断や，科学的な根拠のない判断ではなく，それまでに身に付けた知識･技能や生活経験を基に行うことが大切である。そこで，選択・判断をする際には，「単元で習得した知識」「他教科や他の領域で身に付けた知識・技能」「生活経験」（アンケート等を活用して，生活経験を共有できる工夫が必要）を基にして選択・判断するという枠組みを決めることが必要となる。但し，初めから「この枠組みの中で判断しなさい」と強く規定するものではなく，生活経験も子どもが考える足場に含まれることから，発達段階や学習内容によっては，多少の広がりを持たせている。

■単位時間における指導・援助

③ 選択・判断の規準を明確にする

社会への関わり方を選択・判断する学習活動では，子どもたちが話し合いを通して，考えを広げていくことが大切である。その際，子どもたち同士で，話し合った内容が適切かどうかを判断することが求められる。その規準は「単元で身に付けた概念的な知識」になる。（ここでいう概念的な知識とは，社会的事象の特色や意味を地理的環境，時代背景，社会背景とかかわらせて捉えたものであり，汎用性の高い知識）教師は，この規準を明確に示すと共に，それに即した話し合いになっているかどうかを指導していく必要がある。そうすることで，ただの思い付きの考えではなく，単元の学習を生かした適切な話し合いをすることができる。

以下【図表 10】は，概念的な知識を基に，社会への関わり方を選択・判断した授業の一例である。

【図表 10】概念的な知識を基に，社会への関わり方を選択・判断した授業例

4年生「事故や事件からくらしを守る」

地域の交通事故を減らすためには，どうすればよいだろう

【単元で身に付けた概念的な知識】
地域の安全は，地域に住む一人一人（自分）が，警察等と協力することで守られる。

＜自分＞ 子どもの事故の原因は，自転車による飛び出しが一番多かった。だから，まずは自分たちも地域の住民として，事故に遭わないように気を付けることが大切だと思う。

＜地域ボランティア＞ 見守り隊の○○さんは，小学生だけでなく，中・高校生や大人の方にも積極的に声をかけていた。地域の住民一人一人に意識をもってもらうことが大切だと思う。

＜警察＞ 交番の○○さんは，シニアクラブの方に交通安全教室を開くことや，巡回連絡を大切にしていた。取り締まりだけでなく，地域の人の意識を高める機会を増やすことが大切だと思う。

④ 話し合いを焦点化し，方向性を決める

社会への関わり方を選択・判断する学習活動では，答えのない問題について話し合うからこそ，教師は，子どもたちが考えを発表し合って終わるだけにならないよう話し合いを焦点化し，適切に価値付けていくことが求められる。そこで，教師が示す話し合いの方向性と，それを通して子どもたちに気付かせたい新たな学びの関係性を，次のように整理した。

【図表 11】話し合いの方向性と新たな学び

教師が示す方向性	新たな学び
立場を変える／立場を整理する	複数の立場から考えることで，見方・考え方の幅が広がる
単元を貫く課題と関わらせる	社会的事象の見方・考え方の働かせ方を身に付ける
今の自分の生活とつなげる	今の自分にできそうなことに気付く

⑤ 社会にかかわろうとする姿を価値付ける

教師は，話し合いを通して新たな学びに気付いた子どもたちの姿を，適切に価値付けることが大切である。子どもたちが選択・判断の学習活動を通して，自分のこととして社会にかかわろうとする姿や，社会的事象の見方・考え方を働かせて考えた姿を適切に価値付けることで，社会に関心をもち続け，社会への関わり方について考える力を育成することができる。

研究内容１－（２）にかかわる資料（指導案作成例）

前文のフォーマット

① 単元名　「水はどこから」

② 単元の目標

飲料水を供給する事業について，経路，県内外の人々の協力などに着目して，見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ，飲料水を供給するための事業の様子を捉え，その事業が果たす役割を考え，表現することを通して，飲料水を供給する事業は，安全で安定的に供給できるように進められていることや，地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解できるようにするとともに，主体的に学習問題を追究・解決し，学習したことを基に地域社会の一員として，自分たちが協力できることを考えようとする態度を養う。

③ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 供給の仕組みや経路，県内外の人々の協力などについて，見学・調査したり地図などの資料で調べたりして，必要な情報を集め，読み取り，飲料水を供給するための事業の様子を理解している。 ② 調べたことを白地図や図表，文などにまとめ，飲料水を供給する事業は，安全で安定的に供給できるように進められていることや，生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。	① 供給の仕組みや経路，県内外の人々の協力などに着目して，問いを見いだし，飲料水を供給するための事業の様子について考え，表現している。 ② 飲料水を供給する仕組みや人々の協力関係と地域の良好な生活環境を関連付けて飲料水を供給するための事業の果たす役割を考えたり，学習したことを基に，節水に向けて，自分たちが協力できることを考えたり，選択・判断したりして表現している。	① 飲料水を供給する事業について，予想や学習計画を立て，学習を振り返ったり，見直したりして，学習問題を追究し，解決しようとしている。 ② 学習したことを基に，節水に向けて，自分たちが協力できることを考えようとしている。

単元構成表（全 12 時間）　※　網掛けは，評価したことを記録に残す場面

単元名
水は
どこから

単元学習前の子どもの意識
3年生の時には，火事からくらしを守るために，たくさんの人々が協力して被害を減らそうとしてくれていることがわかったよ。「自分の命や地域は自分で守る」ために，自分にできることも考えることができたよ。私たちの生活の安全や安心は当たり前ではなくて，自分も含めた地域みんなで守っていくものなんだ。

【単元を貫く学習問題】 私たちの生活にかかせない水は，どこから，どうやって送られているのだろう。

【第１時　学習問題を立てる】
私たちはどのような場面で水を使っているのだろう。
・私たちは，いろいろな場面で水を使っているということがよく分かったよ。
・使っている量を比べてみると，特にお風呂や洗濯という場面で，たくさん水を使っているね。
・一人でこれだけの水を使っているなら，〇市全体では，すごくたくさんの水を使っているんじゃないかな…
これだけ多くの水は，どこから，どうやっておくられてくるんだろう。【思―①】

【第２時　学習計画を立てる】
学習問題を解決するために，予想を出し合って学習計画を立てよう。
・きっと，雨が関係しているんじゃないかな。　・私は，海や川の水を使っていると思うよ。
・水道管という言葉を聞いたことがあるから，そこから送られてきていると思うよ。
・色々調べるとよいことが出てきたけれど，まずは水が直接出てくる蛇口から調べるといいんじゃないかな…
どうやら水は，水道管から送られてきているみたい。でも本当にそうなのかな。水道管の先には何があるんだろう。色々調べたいことが出てきたけど，まずはいつも使っている蛇口から調べてみるぞ。【態―①】

【第３・４時　追究①　調査】
学校には，どこにどれぐらい「じゃ口」があるのだろう。
・190近くのじゃ口があったよ。水をよく使う場所にはたくさんあったよ。
・じゃ口には管がつながっていて，たどっていくと受水槽があったよ。
・受水槽の水はどこからどうやって送られてきているのかな…
蛇口の位置や数を白地図にまとめたら，学校全体に散らばっていることが分かったよ。いつでも，どこでも水を使いやすいからなんだね。【知―①】

【第５時　追究②　資料追究・インタビュー】
受水槽の水は，どうやって運ばれてきているのだろう。
・道路の下に 4000km以上の「配水管」があるんだ。先には何があるのかな…
・配水管に異常があると，水が送られなくなってしまうんだね。
・そうならないように日常点検をしたり，うめかえ工事を進めたりしているんだ。
長くて丈夫な配水管を通って送られているんだね。私たちのもとに必ず水が送られてくるのは，配水管をしっかり点検・工事してくれているからなんだ。【知―①】

【第８時　追究④　資料追究】
水源地の水は，どこから送られているのだろう。
・資料を見ると地域の川からポンプで汲み上げているみたいだね。
・地図を見ると，川は山の方から流れてくる。きれいな川や山だからこそ，私たちもおいしい水が飲めるんだね。
・これで学習問題が解決したぞ。これまでの学習をまとめてみよう…
配水管をずっとたどっていくと，川や山という自然にたどりついた。色々な人や施設，自然を通して水は送られている。【知―①】

【第６・７時　追究③　見学】
配水管の先は，どこにつながっているのだろう。
・配水管をたどっていくと，「水源地」という場所にたどり着いたよ。
・水は機械で送られているけど 24 時間体制で異常を確認しているんだって。
・自家発電機で，停電が起きても確実に水が送られるようになっているんだ。
・この「水源地」の水は，一体どこから送られてきているのかな…
配水管の先には水源地があった。水源地の水は機械と人の力で 24 時間いつでも必ず送られるようになっているんだ。【知―①】

【第９時　まとめる・見直す】
水はどこから　どうやって送られてくるのかまとめよう。
・24 時間どんな時でも水が使えるのは，色々な施設や人が協力して取り組んでくれているからだということがわかったよ。
・はじめに予想したとおり，「川」の水が送られてきていたよ。
私たちがいつでもあたりまえのように水が使えるのは，色々な人々や施設や機械の働きのおかげだということがわかった。でも，川の水を使っているということは，水がよごれている心配はないのかな…【知―②】【態―①】

【第 10 時　学習問題の解決】
どうして，水道事業部の〇さんは，直接水を汲んできて 51 種類もの検査をしているのだろう。
・きっと，川には色々な目に見えない細菌がいるから，色々な機械を使って，検査しているんじゃないかな。
・これだけの検査を定期的に行ってくれているから，私たちは毎日，必ずきれいでおいしい水が飲めているんだね。
川の水は汚れていないか少し心配になったけど，〇さんの 51 種類の検査の理由について考えて，私たちの生活を考えて，たくさんの検査をしてきれいな水を送ってくれていることがわかったから，安心して飲むことができる。今まで以上に大事に使いたいな。【思―②】

【第 11・12 時　選択・判断】
水を大切に使い続けていくために，私たちにできることはなんだろう。
わたしは，水を出しっぱなしで歯磨きをしているから，こまめに水を止めて磨きたいし，お家の人も洗い物やお風呂など色々な所で水を使っているから，水ってたくさんの人のおかげで送られてきているんだよ。大事に使おうって話をしたいです。【思―②】【態―②】

単元学習後の子どもの意識
私たちの生活にかかせない水は，地域の川から汲み上げられ，たくさんの施設や人々の働きによって安全な水として届けられていることが分かった。限りある大切な資源だからこそ，使う時にはむだなく使ったり，地域の川そのものをよごさないようにしたり，私たちにできることをしていきたい。地域のみんな，家族のみんなで，「みんなが使う水」を大切にしていかなくちゃ。